

非営利団体(NPO)とのミスマッチ問題に対する XML 検索支援システム

藤井速人

林 幸雄

北陸先端科学技術大学院大学

知識科学研究科

近年、非営利団体(NPO)活動への期待が高まるなか、多くのNPOでは人材不足を訴えている。その一方で、社会貢献活動に参加したいというシニアは増えている。本研究では、シニアがNPO活動参加を希望し、NPO団体の検索を行う段階におけるミスマッチを解消するため、XMLベースの検索支援システムについて検討する。

シニアがNPOを検索する段階で最も重要なポイントは、3つに分類できる。シニアとNPOをつなぐ“共感”、シニアのもつ“技術・経験”、そして心理的障害を解消する為の“信頼性”である。この3つのポイントを踏まえた情報をNPO側はシニアに提供することが必要となる。

豊富な社会経験と専門技術を有するシニアが、人材不足に悩むNPOに有効な労働力を提供できる可能性は大きい。この両者をつなぐ項目について明らかにすることで、両者の間にあるミスマッチの解消へとつながる。

A support system based on XML for a mismatch problem between Non-profit organizations and volunteers

Hayato Fujii

Yukio Hayashi

School of Knowledge Science,
Japan Advanced Institute of Science and Technology

There is expectation that NPO (Non-profit organizations) will be the new solution for complicated social problems we face. Thus a citizen required to take part in NPO. However, it is not easy for NPO to get volunteers. Many NPO lacks for workers as a volunteer and staff.

I propose a support system based on XML for reducing this mismatch between NPO and senior volunteers.

This system provides the information of “feel sympathy” and “reduce the mental gap” and also the information of “opportunity of using skills and experiences”. This information will help to search NPO for seniors.

NPOの人材不足と高い労働力を有するシニア

複雑になっていく社会問題に対する新たな解決策のひとつとして期待の高まるNPOには、市民参加が必要である。しかし、NPOの多くは人材不足を訴えている。これに対し、社会には労働予備軍と考えられる層が存在している。中でも特にシニア層に注目して、豊富な社会経験と専門技術を有するシニア層がNPOに有効な労働力を提供できる可能性について考えてみる。

NPO側が必要としている人材とは？

専門家、研究者に対するニーズが高く、人材の専門性や社会経験が重視されている。スタッフには専門性のほか、各種実務経験が求められており、ボランティアには同じく専門性のほか、比較的柔軟な時間の使い方が求められている。(経済産業研究所「NPO法人アンケート調査結果報告」) その一方で、シニアがNPO活動で、技術経験を活かすことを望んでいる。NPO法人 NPO事業サポートセンターによる「NPOの企業人材受け入れと企業人のNPO就業意向に関する調査研究」(2000年)によると首都圏に在住する50～60歳の就業者500人のうち、回答のあった149人の過半数が、企業での経験や現在保有する技能、資格をNPOの活動の中で「生かせるのならば、生かしてみたい」と考えている。

現在、いくつかのNPOでは、シニアの高い労働力を活用することで、組織力を高め、活発な活動を行っている。またそのようなNPOは、シニアにとっても生きがいを得て働くことのできる場となっている。しかしこのようなNPOはまだまだ少数であり、シニア層のNPO活動への参加率も高くない。NPOとシニアとの間には明らかにミスマッチが生じている。シニアのNPO活動参加を妨げる要因が存在する。

NPO活動への参加を困難にする要因

NPO活動への参加意欲を持っていても、それが実現しない背景には、

活動に関する情報不足

適当な団体がない

活動参加に際する心理的障壁

などが挙げられる。

活動に関する情報不足について

どこでNPO活動に関する情報を得ることができるのか分からないという人は多い。積極的にNPO活動に参加しようという意識がないと、情報を得ることが難しい現状がある。

適当な団体がないについて

現在NPO法人の数は2003年12月31日までに約1万5000近くの団体が特定非営利活動促進法に基づき認証されている。特定非営利活動促進法、通称NPO法が設立されたのが1998年であることを考えると、これは決して満足できない数ではない。問題はNPOの数ではなく、NPOに関する情報が市民まで届いていない状況であると考えられる。

心理的障壁について

これは市民活動の宿命ともいえる問題である。NPO活動に対する社会的認知が高まってきてはいるものの心理的な障壁を取り除くまでには至っていない。

このようなNPO活動への参加を困難なものとする要因を踏まえ、NPOは活動の為に積極的に人材を募集する必要があるが、漠然とした募集をしていては人材を集めることは難しい。ターゲットを絞り、相手の特徴をつかんだ情報を提供することが必要となるだろう。

シニアに対するNPO情報の提供

そこで、NPO活動に参加を希望するシニアの特徴を分析し、そのシニアに対してどのような情報を提供すればよいのかを明らかにする。

NPOの検索を行う段階では、参加者は何らかの興味に基づいて検索を行うが、その興味や関心は非常に漠然としたものであることが多い。そのため希望内容を明確にすることが困難である。これは同じ検索を行う段階でも仕事の検索を行う段階とは明らかに違う特徴である。この段階のシニアは高い社会貢献意欲を持ち、生きがいを求めている。また、自分の技術・経験を活かすことのできる場を探している。しかし、問題意識があいまいであるといえるだろう。では、そのようなシニアがNPOを検索する際に最も重要となることは何であろうか。

シニアとNPOをつなぐもの

シニアとNPOとの事例を通じて分かることは、シニアのNPOにおける活動とは、「やりがい、生きがい」を得ることがメインとなる、ということである。それには二つのパターンがある。まず、NPOの活動に対して共感することが必要である。NPOでは特定の社会的課題を掲げて、それを解決する為に多くの人が協力して活動する。NPO活動に参加する際、判断の決め手となるのは、そのNPOのミッションに賛同、共感するかどうかである。個人的な問題意識と、NPOのミッションが重なったときに、NPO活動に参加することによって達成感を得て、やりがい、生きがいを感じることができる。

もうひとつの「やりがい、生きがい」を得るパターンとは、自分の技術・経験を活かす場を見つけることである。NPOで活用できる能力には、会計・経理などの事務処理や、語学・教育関係、各種専門技術、軽作業など様々である。また、シニアの豊富な社会経験は零細的なNPOにとって必要不可欠なものである。

またNPOを探す際に大きな問題となるのがNPOの信頼性である。NPO活動に参加する際に感じる心理的障害は無視できるほど小さなものではない。検索段階で感じる心理的障害によってそれ以降の段階に進むことをためらってしまう現状がある。NPO、市民団体というのは、ある種の“あやしさ”を感じる事が少なくない。企業であれば、社会で評価されるが、NPO、特に草の根的なNPOには社会的信用の面で不安を感じる人も多い。このような心理的障害を減らす工夫が必要である。“自分を活かすことができるだろうか？”“どのような団体だろうか？”このような疑問に対して明確にすべき情報がある。

以上をまとめると、シニアがNPOを検索する段階で最も重要なポイントは、3つに分類できる。シニアとNPOをつなぐ“共感”、シニアのもつ“技術・経験”、そして心理的障害を解消する為の“信頼性”である。この3つのポイントを踏まえた情報をNPO側はシニアに提供することが必要となるだろう。

XMLを用いたNPO検索

以上のようなシニアの検索の段階の特徴を踏まえ、XMLを利用したNPO検索システムを試作した。まず、NPO情報登録フォームとして用意した項目にNPO側がデータを入力し、それを自動的にXMLとして保存する。一方のシニア側は、保存されたNPO情報ファイルから「活動分野」「活動地域」「技能経験」の3つの検索条件によって検索を行う。その結果が一覧として表示され、各NPO情報XMLファイルをXSLスタイルシートを使用して表示する。

検索条件

検索の項目は、メタデータとなっている以下の

地域

分野

経験・技術

の3項目とする。これは、アプローチ段階の「あいまいさ」を考慮すると、細かい検索条件よりもメタデータでの検索のほうがシニアにとって使いやすいものとなる。

教育 ▼	大阪 ▼	教育 ▼
------	------	------

地域

使用したNPOデータの関係で地域は、関東、東京、愛知、東海、京都、大阪、兵庫、近畿の8項目とした。

分野

メタデータ<共感>項目の上位階層である<分野>より選択する。今回はNPO活動を6つにわけ、福祉、地域、教育、文化、国際協力、自然環境の6項目とした。

経験・技術

NPOで活用できる技術・経験として、教育、語学、会計、経理、運営、人事、法務、営業、広報、軽作業、各種技術者の11項目とした。

検索結果一覧表

分野	問題提起	具体的作業	経験・技術	名称
教育	子どもたちにスポーツを通じて、友だち作りや学校をこえた交流を促進	スポーツ、レクリエーション活動の補助	教育	<u>ベアーズ・スポーツクラブ</u>
教育	障害のある児童が利用していますが、ボランティア不足のため多くの子どもたちが待機している状態です	障害者がプールへ行くことを支援、安全にプールを利用するためのガイドマップの作成	軽作業	<u>NPO プールボランティア</u>
教育	子どもたちが時分のやりたいことを自発的にとりくむ場所を提供したい	スポーツ指導、学習補助	教育 スポーツ	<u>フリープレイスなわて</u>
教育	子どもたちが安心して過ごせる居場所の提供が必要だと考えています	学習の補助、大検受験指導、音楽、絵画、パソコン指導	教育 パソコン	<u>神戸フリースクール</u>
教育	地域にある伝説を紙芝居に仕立てて、民話の語りや手遊びを子供たちに伝えたい	保育所、児童文化センター、養護施設などでの手作りの紙芝居の製作・上演	特になし	<u>こはるび会</u>

検索を行う段階のシニアの特徴から、最も重要である「共感、信頼」を得るのに必要な情報を提供し、技術経験を活かせるかどうかを明確にできるように工夫した。この検索の特徴であるNPOとシニアをつなぐ3つの項目に提供すべき情報を各NPO側で十分に検討してもらう必要がある。

技術・経験で検索するシニアの4パターン

技術・経験の検索条件で検索するシニアを以下の4つのパターンに分類できる。

教育、語学関係の仕事に関わっていたシニア

教育、語学関係の経験を活かしたいと望む人は、NPO分野の検索項目である「教育」から教育関連のNPOをすぐに見つけることができる。また、他の活動分野である「地域」、「文化」、「国際協力」などでも教育、語学関連の経験を求めるニーズが少なからず存在するし、役に立つ場面があると考えられる。

会計、経理といった専門性を有するシニア

会計、経理といった専門性を有し、それを活かしたいと望む人は、本システムで区分されている6つの分野、福祉、地域、教育、文化、国際協力、自然環境のすべてにおいてボランティアの機会を得ることができる。単なるボランティア団体ではないNPOには、組織運営が必要であり、その基本的能力である会計経理といった分野は現在のNPOが苦手とする分野である。もっとも需要の高い技術・経験と言えるだろう。

各種技術者

各種技術者が必要とされるNPOは決して多くないが、各種技術者から成り立つNPOもある。また、「国際協力」、「自然環境」の分野のNPOで専門技術者を求めている団体を検索することもできる。

特定の専門技術以外で

「福祉」の分野では、運転免許をもっている人を募集しているNPOを検索できる。また、「地域」の分野では、その地域に住んでいるということが大きな要素となる。軽作業はすべての分野のNPOで機会を探すことができるだろう。

まとめ

本研究では、NPOとシニアをつなぐことの有効性について考察した。豊富な社会経験と専門技術を有するシニアが、人材不足に悩むNPOに有効な労働力を提供できる可能性は大きい。この両者をつなぐ項目について明らかにすることで、両者の間にあるミスマッチの解消につながる。今後は、NPOとシニアとをつなぐ項目を踏まえた情報提供を行う社会システムの整備が望まれる。